

## 会長就任のあいさつ

木嶋恭一（きじま きょういち）  
東京工業大学

この度、平野前会長の後任として、経営情報学会の会長の任を担うことになりました。みなさまどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

まず簡単に自己紹介をさせていただきます。東京工業大学大学院での学生時代には、本学会を立ち上げられた松田武彦先生、元会長の高原康彦先生の研究室に所属し、システム科学・システム理論を学びました。以来、社会システム・モデリングを核に研究を進め、意思決定システム科学、サービスシステム科学、社会システムデザイン等の研究プロジェクトに従事してきました。

その過程で、H. A. Simon, K. Boulding, R. Ackoff, M. Mesarovic, P. Checklandをはじめとするそうそうたる、また、様々なタイプの研究者と巡り会う機会を得、「世界に発信する研究者」に強いあこがれを抱くようになりました。International Society for the Systems Sciences (ISSS)の日本人初の会長として、2007年にその第51回年次大会を東京で開催する機会にも恵まれ、現在は、Springer-NatureのTranslational Systems Science Book Seriesの編者としての活動にも重点を置いており、我が国からの情報発信の重要性を強く意識しております。

IoEの時代を迎え、広義の情報システムを活用して、人間系・機械系をシームレスに結び、その相互作用を通して新たな社会的・経済的・文化的価値を生み出すためには、人間・組織等の意思決定主体に対する社会科学の深い洞察、システム構築に関する理工学的な理解とデザインマインド、それらを統合するシステム的な方法論の開発、を三位一体として進めるアプローチが不可欠です。これはまさしく、経営情報学会が社会に貢献しようとする学術的領域ではないでしょうか。



学会の現状と課題を十分踏まえるとともに、これまでの総務・編集委員長等の経験も活かしつつ、本学会がこの学術分野での研究プラットフォームになることを目指して参ります。会員の所属満足度をいっそう高め、相互交流を促進し、新たな理論、思考の枠組み、モデル、実証研究、方法論等の成果を活発に世界に発信することで、学会のプレゼンスを内外にアピールしていきたいと考えています。

そのために、まず、アカデミアと実務家の交流、理論と実践の循環を促進し、研究水準の向上を旨とします。また、若手学会員への重層的支援の充実を図って学会の魅力を高めるとともに、学会の社会貢献・連携を強化するために、社会から求められる魅力的な活動を展開します。さらに、PACIS 2018開催支援等を通して、研究成果の国際発信と研究交流のプラットフォーム機能を可視化し、学会の国際化を推進します。

みなさまにとって一層価値のある学会、内外に存在感のある学会にして参りたいと思いますので、お力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。